

令和3年度

教育委員会総合教育視察結果の集約

◇視察日時

令和3年10月25日（月）

◇視察目的

甲府市立学校において、学校長の学校経営方針を聞き、管理運営・指導体制のあり方を確認し、改善等の必要が認められたときには指導助言を行うとともに、児童生徒の学校生活の様子について授業参観等を通して把握する。

◇視察報告の集約

- 1) 学校経営全般
- 2) その他

【小中学校】

1) 学校経営全般（学校の特色、指導方針、生徒指導の現状など）

【気づいた点】

- ・学校長がしっかりとしたビジョンを持って学校経営にあたっている。また、各学校で掲げられている学校教育目標の実現にむけて、学校長のリーダーシップのもと、全教職員が同じ方向を向いて指導にあたっている様子が見られた。中には、「明日も行きたい」という文言が入った特徴的な教育目標を掲げている学校もあった。
- ・全般的に、学習規律が確立されており、落ち着いて学習に臨んでいる。ノートを真剣に取っていたり、たくさんの発言が見られたりすることからも、児童生徒の学びに対する高い意欲を感じた。
- ・各校で「甲府スタイル」を意識した授業作りが実践され、「見通し」と「振り返り」を大切にしている様子が見てとれた。校内研究とも関連し、全教職員が一人一実践を通して、授業改善に努めている学校もある。また、学校独自に「〇〇タイム」を設定して、児童生徒の基礎基本の定着を図っている学

報告：第18号

校もあった。

- ・今年度より導入された一人一台端末にともない、各校においてもICTの効果的な活用が行われていた。また、デジタル教科書も積極的に活用され、視覚的にも分かりやすい授業実践がなされていた。若い教師を中心にICT活用に向けた取組を工夫している学校もあった。
- ・各教室とも整理整頓がよくなされ、学びやすい環境になっている。児童生徒の減少に伴い、空き教室が増えてきている学校もあるが、掃除もしっかりと行き届いていた。ミニ美術館を作ったり、廊下に写真を掲示したりして、スペースを有効的に使っている学校もあった。また、階段には「英語カード」等の学習に関わる掲示物などもあり、全校体制で学びの環境を作り上げている様子がうかがえた。
- ・地域との連携に関しては、多くの学校で推進されている。登下校中の見守り隊による児童生徒の安全確保で、地域と連携している学校もあった。また、地域の大学の学生や地域の教員OBを活用し、支援が必要な児童生徒の指導に協力してもらっている学校もあり、多岐にわたって地域との連携が図られている。しかし、保護者が学校に対して大変協力的な反面、学校に対する過度な要望が多いケースもある。
- ・教職員の年齢構成が50代以上と若手の2極化が進んでいる学校が多い。管理職や学年主任などが適切に指導助言し、若手を適材適所で活用している学校もあった。今後、益々若手は増えてくることが予想されるため、学校体制の中で、適切に育成していく必要性を感じた。
- ・校内の各所に消毒液を置いたり、各所で換気を行っていたりしていた。教室でも机の位置が一定間隔で配置されており、新型コロナウイルス感染症対策がしっかりとされていた。
- ・地域には、狭い道路や交通量の多い道路も多くあり、登下校の安全に注意を払っている学校が多かった。地域の見守り隊に協力を得たり、教頭先生を中心に教職員が立ち番をしたりして、児童生徒の安全確保に努めている。
- ・働き方改革を念頭に、職員の勤務実態をつかみ、管理職自らが声かけをしている学校もある。全体的には改善傾向が見られるが、依然として退勤が遅い職員もいる。
- ・特別支援学級においては、障害や特性も多様化している。担当する先生方の数も十分ではない中ではあるが、特別支援教育支援員などを活用し、工夫しながら指導を行っている。必要に応じてケース会議も行い、個に応じた丁寧な対応を心がけていた。
- ・支援を必要とする児童生徒が多数在籍しているが、教師の適切な配慮や工夫された授業、教室の環境作りなど、多くの工夫がなされていた。また、担任

報告：第18号

だけでなく、管理職や教務も応援しながら、全校で関わる体制作りを構築するなど、先生方の努力の様子がうかがえた。

- ・不登校については、各校できめ細かい対応をしている。学級担任だけに任せず、情報共有を行い、全校体制で寄り添った支援や指導を心がけたり、関係機関と連携したりしながら、取り組んでいる。
- ・各校で、小中での連携を行っている。全国学力学習状況調査の結果を分析し、「メディアコントロール」の取組を連携して行っている学校もあった。
- ・通級学級が設置されている学校もある。支援や教育相談を必要としている児童が増加傾向にある。来校出来ない児童には巡回指導をするケースもある。
- ・児童生徒の減少にともない、学校模校も縮小傾向にあるが、小規模としての利点を生かした学校経営や学習指導がなされており、特色作りにつながっていると感じた。

【指導・助言】

- ・児童生徒が学ぶ環境としての校舎が、明るく落ち着いている学校が多い。各教室や廊下、階段などには、学習に関係のある物や地域、学校の歴史など、様々なものが掲示されている。自然に目に触れることで、視覚的にも学習効果が上がるため、引き続き環境作りに努めてほしい。
- ・担任と児童生徒の距離が近く、安心して、生き生きと授業を受けている様子が見られた。先生方も児童生徒の意欲を引き出そうと工夫して授業を実践している。お互いの信頼関係を大切にして、引き続き丁寧な指導をお願いしたい。
- ・発言をした児童生徒に「ありがとう」と声をかけたり、発言内容を適切に評価したりして、自尊感情や自己肯定感を高めるようにしている学校もあった。今後も継続して指導をお願いしたい。
- ・どの学校も黒板には本時の「めあて」があり、「甲府スタイル」を意識した授業が実践されている。今後も、甲府スタイルを授業に取り入れつつ、様々な視点から授業改善を進めてほしい。
- ・昨年度より小学校で教科化された外国語では、児童が恥ずかしがらずに授業に参加している。何でも言えるクラスの土壌を大切に、今後も英語嫌いにつながらないように、丁寧な指導をお願いしたい。
- ・学習の基礎基本の定着は日々の積み重ねが大切。習慣が学習意欲を高めるため、引き続き指導をお願いしたい。
- ・ICTを積極的に活用している学校が多い。授業も分かりやすく展開されていた。ICTを使うことで学習効果があがる場面と、自らの言葉で発表した方がよい場面もある。ICTを使うタイミングを考えながら、引き続き活用の推進に努めてほしい。

報告：第18号

- ・教職員の多忙化対策に関わっては、今年度より導入された留守番電話や統合型校務支援システム、人的補助（学習指導員等）を活用して、改善されるように引き続き取り組んでほしい。
- ・小規模校においては、クラス替えがなく、人間関係や役割が固定されやすい。児童が目立たない部分を認め、褒めてあげるなどして、やる気を育ててほしい。また、小規模校ゆえの利点を生かし、児童と教職員の信頼関係を引き続き丁寧に作っていただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症対策に関しては、各校とも玄関での健康観察、手指消毒、換気、校内の消毒等、大変ご尽力いただいている。おかげで、ここまで感染も広がることなく済んでいる。引き続き、気を緩めることなく対策に取り組んでいただきたい。
- ・課題を抱えている家庭、児童生徒が多い中、校長先生のリーダーシップのもと、全職員で問題解決にあたっている。継続して丁寧な対応をお願いしたい。
- ・不登校になる児童生徒が増加傾向にあるとのこと。関係機関とも連携しながら、引き続き丁寧な対応をお願いしたい。
- ・「いじめはいかなる理由でも許されない。」この認識のもと、児童生徒が困っている時には、声を上げやすい環境作りを今後も心がけてほしい。
- ・登下校の安全面、災害時の安全確保など、関係機関や地域と連携し、引き続き対応をお願いしたい。

2) その他

- ・外国にルーツをもつ児童生徒は増加傾向にある。保護者、児童生徒ともに、日本語が話せないケースもあり、通訳等、対応を検討していく必要がある。
- ・要保護、準要保護家庭や学納金未納が多く、生活に困窮している家庭が増えていると感じる学校もある。
- ・近くに児童養護施設が設置されている学校もあり、そこから登校してくる児童生徒もいる。様々な事情を抱えての学校生活になるため、施設職員との連携を丁寧に行っている。
- ・近隣の文化的施設と連携した教育活動を継続的に行っている学校もある。
- ・近隣のマンションや団地からの通学率が高い地域がある。
- ・コミュニティースクールの先進校として、創意工夫した取組を期待したい。
- ・各施設、設備で、老朽している部分や、設置状況に不具合がある場所もある。関係各課と連携を取っていく。
- ・特別支援教育支援員や学習指導員、SSS等、引き続き人的配置をお願いしたいとのこと。